

經典餘師

詩經

一

11
1029
29

1029
29

讀岐百年先生述

經典
餘師
詩經之部
卷八

浪華書林

稱觥堂
利涉堂
刻

經典餘師序



先王之道。存乎七經也。
炳如日星。然或有不知
不解者何也。不善讀故
也。所以讀而不善讀者

何也。不得其師故也。是以古之學者。必擇師而事之。而後日知其所不知。駿々乎以進。傳曰三王四代。唯其師。其斯之

謂歟。通邑大都。固不乏其師。若夫僻邑寒鄉。求師而不得。徒費歲月者。實可憫惜哉。漢世尊有慨于茲。謂高論之無益。

不如卑論之有益也。因
以國字解論語孝經等
書。博之不置。名曰經典
餘師。學者獲而讀之。則
雖僻邑寒鄉。豈不有餘
師哉。再介乞余序。為題
以一語云

天明丙午仲秋

正二位菅原胤長



詩經

國風一

詩經

詩といふ民間の謡言なり歌なりといふ
 周の御世に國々の諸侯の歌謡と取らるる
 天子の献て天子とて音楽の宮に奏さる
 める其土地の風俗なり人情と察し
 知る事なり今教とて人上下の人情
 備ふる上立政務と取の人情
 と可なり第一義なり人情と老
 男女貴賤貧富の人の情なり

國風一

風は觸る如く人情の動なり
 詩は國風二雅頌の四なり第一番

小在ゆふと人情人情の喜
 る怒る哀る樂る愛る惡る
 賤の情と知富る身と貧窮の情と
 知る一善と見て勸む惡と見て
 懲め其辭古雅なり本邦の
 類の和歌なり

周南一之一

周南一之一

周公召公政教之執天下之

德化のあまねく及ぶたてて周南召公の名

關雎三章

關雎三章

諸侯の伯王の時とて大聖

諸国男女の風俗たゞしく治安なる

この三の章といふ

關關雎鳩在河之洲窈窕淑女君子

好逑

雎鳩はみづとて鳥とて唯雄

の在りて夫婦の道に實も文王の好逑と

參差荇菜

の在りて夫夫婦の道に實も文王の好逑と

左右之流

申してまづるごとく淑女とてかゝるひめ

窈窕淑女

人として文王の事なり

寤寐求之

菜左右流之窈窕淑女寤寐求之求

不得寤寐思服

之不得寤寐思服悠哉悠哉輾轉反

側側

側この詩の心は川に遊で荇菜とて

參差荇菜

水草のやみだりたるを好む賢人の女と

左右之采

求て其の内と治り賢人とて擧て文王の助と

窈窕淑女

思服て寤も寤も是とて得て悠哉悠哉

輾轉反側

之窈窕淑女參差荇菜左右采之

鼓之樂乃の也
毛音唱熟而薦之也

葛覃三章
中

葛覃三章
中

葛覃三章
中

葛覃三章
中

葛覃三章
中

葛覃三章
中

葛覃三章
中

葛覃三章
中

葛覃三章
中

葛覃三章
中

葛覃三章
中

右美之窈窕淑女鐘鼓樂之

葛覃三章
夏の初めをうけ、葛の葉が茂る様子、女子の嫁ぐ時節を詠む。

葛覃三章
夏の初めをうけ、葛の葉が茂る様子、女子の嫁ぐ時節を詠む。

葛覃三章
夏の初めをうけ、葛の葉が茂る様子、女子の嫁ぐ時節を詠む。

葛覃三章
夏の初めをうけ、葛の葉が茂る様子、女子の嫁ぐ時節を詠む。

葛覃三章
夏の初めをうけ、葛の葉が茂る様子、女子の嫁ぐ時節を詠む。

葛覃三章
夏の初めをうけ、葛の葉が茂る様子、女子の嫁ぐ時節を詠む。

葛覃三章
夏の初めをうけ、葛の葉が茂る様子、女子の嫁ぐ時節を詠む。

葛覃三章
夏の初めをうけ、葛の葉が茂る様子、女子の嫁ぐ時節を詠む。

葛覃三章
夏の初めをうけ、葛の葉が茂る様子、女子の嫁ぐ時節を詠む。

卷耳四章

經典餘師

卷耳四章

此詩も文王西國と治め、都の役用、けく臣下の勸め。

維葉莫莫是刈是漙為絺為綌服之

無穀
葛の葉色の莫々々々、漙々々々、是は絺と綌、服之。

無穀
葛の葉色の莫々々々、漙々々々、是は絺と綌、服之。

無穀
葛の葉色の莫々々々、漙々々々、是は絺と綌、服之。

無穀
葛の葉色の莫々々々、漙々々々、是は絺と綌、服之。

無穀
葛の葉色の莫々々々、漙々々々、是は絺と綌、服之。

無穀
葛の葉色の莫々々々、漙々々々、是は絺と綌、服之。

無穀
葛の葉色の莫々々々、漙々々々、是は絺と綌、服之。

無穀
葛の葉色の莫々々々、漙々々々、是は絺と綌、服之。

無穀
葛の葉色の莫々々々、漙々々々、是は絺と綌、服之。

卷耳と采采頃
筐と盈不嗟我
人と懐て彼周
行ふ真
彼雀嵬と陟れ
我馬虺隤我
姑く彼金罍と
酌て維以て永
く懷不
彼高岡と陟れ
我馬玄黄我
姑く彼兕觥と
酌て維以て永
く傷不

米米卷耳不盈頃筐嗟我懷人真彼
周行
春の野遊に出ゆの草と采とを慰むるは僅の筐に
盈ぶるより又徳有人の心と懐出ゆの心とを慰むるは
人より為るの時に出ゆの心と懐出ゆの心とを慰むるは
人より為るの時に出ゆの心と懐出ゆの心とを慰むるは
我馬虺隤我姑酌彼金罍維以不永
懷
定て山の雀嵬と陟るの有時に我大夫の馬もつ
くれ虺隤一今事畢て歸る先慰むるの心と
一献と酌をさし酒と入るの心とを慰むるは
不懷一の心と
陟彼高岡我馬玄黄

彼硯と陟れ
我馬虺隤我
僕庸と云ふ何
と吁と云ふ

我姑酌彼兕觥維以不永傷
岡と山の脊より玉の昆岡より出ると玉の昆岡の脊より
り玉の出ると玉の昆岡より出ると玉の昆岡の脊より
あるものゆへに玉の昆岡より出ると玉の昆岡の脊より
の角より作ると玉の昆岡より出ると玉の昆岡の脊より
心の傷と玉の昆岡より出ると玉の昆岡の脊より
と云ふ

樛木三章
南有樛木有葛
藟之纍纍樂
只の君子福履
之と綏之

僕痛矣云何吁矣
過行なれ馬も痛僕人も痛なり
と云何吁と云ふ

樛木三章
南有樛木有葛
藟之纍纍樂
只の君子福履
之と綏之

樛木三章
樛木の詩は文王の徳と又后妃の徳と
南有樛木葛藟之樂只君子福履
綏之
樛木は古木あり葛藟は蔓なり木といふ君子は
文王なり詩の心は民文王の徳と又后妃の徳と

南有樛木南有樛木有葛藟之荒樂只君子只の君子福履之と持く之成之と成す

蟋斯三章蟋斯の羽説説爾の子孫爾の子孫振振今宜る

蟋斯蟋斯の羽説説爾の子孫爾の子孫繩繩今宜る

桃夭三章桃之夭夭灼灼其華灼灼其華之子之子歸歸其室家

南有樛木南有樛木有葛藟之荒樂只君子只の君子福履之と持く之成之と成す

蟋斯三章蟋斯の羽説説爾の子孫爾の子孫振振今宜る

蟋斯蟋斯の羽説説爾の子孫爾の子孫繩繩今宜る

桃夭三章桃之夭夭灼灼其華灼灼其華之子之子歸歸其室家

實其子于
 有之其子
 歸其家室
 其葉蓁蓁
 挑之夭夭
 其子于
 歸其家人

兔置三章

肅肅兔置
 于中逵
 武夫公侯
 公侯之好
 肅肅兔置
 于中林
 武夫公侯
 公侯之腹

又仲春桃始華
 桃之夭夭有實其子于
 歸宜其家室
 桃之夭夭其葉蓁蓁
 之子于歸宜其家人

兔置三章

山野之隱
 賢者之志
 得世而出

肅肅兔置之丁丁起武夫公侯

于城

于中逵
 武夫公侯
 肅肅兔置

中逵起武夫公侯好仇

置施于中林起武夫公侯腹心

又君之為
 腹心の臣下

采芣三章

采芣采芣采芣

采芣采芣采芣

采芣采芣采芣

采芣采芣采芣

采芣采芣采芣

采芣采芣采芣

采芣采芣采芣

采芣采芣采芣

采芣三章

采芣采芣采芣

采芣采芣采芣

采芣采芣采芣

采芣采芣采芣

采芣采芣采芣

采芣采芣采芣

采芣采芣采芣

采芣采芣采芣

漢廣三章

漢廣三章

漢廣三章

漢廣三章

漢廣三章

漢廣三章

漢廣三章

漢廣三章

漢廣三章

漢廣三章

漢廣三章

漢廣三章

汝墳三章
彼汝墳上遵之
て其條枚と伐
未だ君子と見
と愍として調

飢の如く
彼汝墳に遵ふ
て其餘輝を伐り
既よ君子と見
我と還棄せ
不
鮫魚頰尾王室
燬ぐ如く則ち
燬ぐ如く雖
ども父母孔
通

取得つゝとてとてや之子の嫁歸とてたつたの
子の為ふ馬の秣ともつゝ一はくともとて此の心
と述ゝとのありうれどもりの女
妾はつゝぐふ心夢くらとてと述り
翹翹錯錯

言刈其藁之子于歸言秣其馬漢之
廣矣不可泳思江之永矣不可方思

汝墳三章
ふの詩ハ紂王の時々の法令道
々々として人々役事之苦々

歸ふりてその妻の慕ひ詞なり
 遵彼汝墳伐其條枚未見君子惄如

調飢 大夫役事と奉て汝水の川の填遵
を行て樹木の條枚と伐とて交代

の命令もあつて久く歸りたりとの妻の心より
君子は相見との時節はらんやと貞心よりて夫と
あつひ公事と重くて怨言といはず心よ思ふ
ふくむとなくば飢う人調ふ怒るゝいなり○遵

彼汝墳伐其條肄既見君子不我遐

棄セ上ウヘより、板イタの幹ミより、榱ツギの榱ツギに復また生ナるル此詩の
心ココロより、くふ君子クニノリと相見あひまくと得えて、下シタより、板イタの

我と返棄のふ心よそも
ふふふふふふふふふふ
○魴魚煮尾室

如燬雖則如燬父母孔邇

天下の諸侯百姓すても叛くことと文王徳と以て撫
すもやて紂王よりくろく万民とて文王とて父母
なりと仰ぎてしるふ詞の心ハ大夫よりぞしす万
民皆今の政務役事等よりくろくこの下なるなり

麟之趾三章
麟之趾振振也
公之于嗟麟

麟之趾三章
麟之趾振振也
公之于嗟麟

麟之趾三章
麟之趾振振也
公之于嗟麟

麟之趾三章
言終卷之一
麟之趾三章
言終卷之一

麟之趾三章

聖人の徳の子孫に被ふ公

意と述て麒麟の徳

麟之趾振振公子于嗟麟兮

麟の角

麟之趾三章
言終卷之一
麟之趾三章
言終卷之一

定振振公姓于嗟麟兮

振公族于嗟麟兮

姓の氏家をさへりて一族を

召南一之二

召公の地をさへりて

所を説く

鵲巢三章

后妃の聖徳天下に

又子と育養と正く均之

維鵲有巢維鳩居之

御之

依て女の人の家と

米穀三章
于以て藺と
采沼于汴于
よ以て之と用
也公侯之事
于以て藺と
采澗之中于

草蟲三章
嘒嘒しうしうしうしう草蟲しうしう
薿薿しうしう一乃阜螽しうしう
亦しうしう既しうしう覯しうしう正しうしう
亦しうしう既しうしう覯しうしう正しうしう

采芣二章
凡て祭の百物とて南方の諸侯の夫人も
敬肅て供物とするのしく
德能先祖
于以采芣于沼于沚于以用之公侯
之事
詩の心沼の沚の
公侯の祭の宮中供用の義なり

于以米藪手澗之中于以用之公侯
之宮澗と谷川なり宮と宗廟○被僮
僮夙夜在公被之祁祁薄言還歸祭の
式とて女被髪と無てそのくも僮のふい、酒食
のふいも夙夜公の言中ふあなりて祭なり

草蟲三章
大夫役事と奉て他所へ
とつとの妻の夫とつとの時節
とつとの

心則降心則降彼南山彼南山言其言其未未憂憂亦亦既既則則彼南山彼南山言其言其未未憂憂亦亦既既則則

見君子憂心悒悒亦既見止亦既覯止我心則說見君子憂心悒悒亦既見止亦既覯止我心則說陟彼南山言采其藣未陟彼南山言采其藣未傷悲亦既見止亦既覯止我心則夷傷悲亦既見止亦既覯止我心則夷

米蘋三章

米蘋三章 米蘋三章 米蘋三章

米蘋三章米蘋三章于以于以米南澗之濱于以米南澗之濱于以彼行潦于以彼行潦于以盛維盛維于以于以湘維湘維及金及金下誰下誰季女有季女有

于以米蘋南澗之濱于以米藻于彼行潦于以米蘋南澗之濱于以米藻于彼行潦于以盛之維于以盛之維及金及金下誰其戶之有齊季女下誰其戶之有齊季女

甘棠三章

甘棠ハ堅梨ト云フ其ノ皮ニ
花ハ其ノ色白シ此詩

ハ民にも召公の恩徳と
とみて作れりやう

蔽蒂甘棠勿剪勿伐召伯陞爰召公の

菱かみし所は甘棠の樹の下に民の
 訴状をこめておくる民も後までも召公の恩徳
 とを心奉りてはみは相戒めてつとめするすこの由
 棠とあらとみすばうの枝葉なにと前かきとつて
 べん呪て樹木と伐とらるゝ
 菱かみし草屋の
 勿剪勿敗召伯所憩
 蔽芾甘棠勿

の説を所ん

剪^カ拜^ハ召^メ伯^{ハク}所^所說^説

賤しずんち技ぎ折せこうりると
 ばころの心こころといふは甜あま想おも

まゐりてゐる舞臺技と云ふやう
なところを説く一宿と云ふこと

とてすむ大城

行露三章

聖人の徳化より
前日の淫乱の風儀

強暴^{ひげ}うら男^{おとこ}力^{ちから}もあふんと
耻^{はにか}しあふと恥^{はにか}しあふと

厭^タ浥^タ行^タ露^タ豈^タ不^タ夙^タ夜^タ謂^タ行^タ多^タ露^タ路^タの^タ詩^タ

今迄の如く無頼の男子わくこと中々礼儀とて
のへどして女子道とみなりとも依てこの詞と説て

そとよりかりたり我と招迎ととてこの二月廿三日の
昏姻の節と過て礼々としてまゝ許さんとするや行し違ふ

しと行へぬとて託てあるが
なり厭いぬとてなり
○誰誰佳無

角何以穿我屋。誰謂女無家。何以速。

誰謂雀無角
誰謂雀無角
我屋穿
誰謂女不家
無何
我以
我獄速
我獄速

經典餘而

寺歷卷之一

三

雖也室家不足

誰謂鼠無牙

我墉與穿誰謂

何也我以我

誰謂鼠無牙何以穿我墉誰謂女無

家何以速我訟雖速我訟亦不女從

豕羊三章

豕羊之皮革素絲五純退食公自

未女蛇委蛇

豕羊之革素絲

五絨委蛇公自

退食

豕羊之縫素絲

五總委蛇公自

退食

豕羊之縫素絲

五總委蛇公自

退食

我獄雖速我獄室家不足

誰謂鼠無牙何以穿我墉誰謂女無

家何以速我訟雖速我訟亦不女從

豕羊三章

豕羊之皮革素絲五純退食公自

未女蛇委蛇

豕羊之革素絲

五絨委蛇公自

退食

豕羊之縫素絲

五總委蛇公自

退食

豕羊之縫素絲

五總委蛇公自

退食

豕羊之縫素絲

五總委蛇公自

退食

昏姻の約とて謂つぐ

小星二章

補注の諸侯の夫人いづれも徳の
化して妬嫉の心なく能く

群妾と恵つゝみふと
美てつゝみふと

嘒彼小星三五在東肅肅宵征夙夜

在公寔命不同

この詩の心は君の寢所ののろ
けといる群妾のこころいふ

夫人の外いづれいづれも君の勤とて
出でゆき又星あるうら退出を夙夜追公の側といふ
しるり宵と曉のうらとていふとてひり雪は三五五
むり星の東方よりうらとていふとて公はうらとて
職の命令られ同じううらとての別ありとて
嘒彼小星維參與昴肅肅宵征抱衾

與綢寔命不猶

夫人の綢のうらとて衾の
てといふ用さるゝとて群の妾

とていふとて参昴も星名なり

江有汜三章

諸侯の昏礼嫡妻といふ
とて勝妻とすて連なり

江有汜有之子歸不我以不我以
不我以不我以不我以不我以不我以
不我以不我以不我以不我以不我以

江有汜之子歸不我以不我以
不我以不我以不我以不我以不我以

江有汜之子歸不我以不我以
不我以不我以不我以不我以不我以

也悔

嫡妻のといふとて初の
とて本妻といふとて嫡妻のといふとて

江有渚之子歸不我與不我與
不我與不我與不我與不我與不我與

江有渚之子歸不我與不我與
不我與不我與不我與不我與不我與

何彼穠矣唐棣之華曷不肅雝王姬
何彼穠矣唐棣之華曷不肅雝王姬
 王姬之車
 何彼穠矣
 矣華桃李之如
 平王之孫齊
 侯之子
 其釣維何維
 絲伊緡齊侯之
 子平王之孫

何彼穠矣唐棣之華曷不肅雝王姬
何彼穠矣唐棣之華曷不肅雝王姬
 之車
彼穠一くつと含唐棣のすくくと王姫の
はく一くつと含唐姫の周の姓より周王の女より

何彼穠矣華如桃李平王
何彼穠矣華如桃李平王
 之孫齊侯之子
桃李ふくつと平王の孫より齊侯の
の襄侯の子より嫁
の襄侯の子より嫁

其釣維何維絲伊
其釣維何維絲伊
 緡齊侯之子平王之孫
緡齊侯の子より平王の孫より
の襄侯の子より嫁
の襄侯の子より嫁

緡齊侯之子平王之孫
緡齊侯の子より平王の孫より
 緡齊侯之子平王之孫
緡齊侯の子より平王の孫より
の襄侯の子より嫁
の襄侯の子より嫁

騶虞二章

騶虞二章

騶虞二章
南方の國を能く治平して仁澤諸物に及て蕃殖しう武もす

彼茁者葭壹發五豝于嗟乎騶虞
彼茁者葭壹發五豝于嗟乎騶虞
 壹發五豝
 于嗟乎騶虞

彼茁者葭壹發五豝于嗟乎騶虞
彼茁者葭壹發五豝于嗟乎騶虞
 壹發五豝
とみれば葭葭までも茁盛て禽獸をいれ
より唐土に射の一發に乘失なりその五の豝

彼茁者蓬壹發五豝于嗟乎騶虞
彼茁者蓬壹發五豝于嗟乎騶虞
 壹發五豝
 于嗟乎騶虞

彼茁者蓬壹發五豝于嗟乎騶虞
彼茁者蓬壹發五豝于嗟乎騶虞
 壹發五豝
射よりとみれば葭葭までも茁盛て禽獸をいれ
より唐土に射の一發に乘失なりその五の豝

邶一之三

邶一之三

邶一之三
邶の國并ふ次の鄭の國より

發五豝于嗟乎騶虞
發五豝于嗟乎騶虞
 邶一之三
邶の國并ふ次の鄭の國より

婦人の夫は不得意の詞
身と栢舟にとりて

汎彼柏舟亦汎其流耿耿不寐如有
隱憂微我無酒以敖以遊

舟の流なみだをくわくわ

ぬらふ身よたゞし詩人婦人の身は夫と乃のこゝろ
とかなるふ今心もろれひ歌々て夜も寐さず身体
は隠憂所のあがごとくちあてい酒さてうさそ
そらう散遊とのあるべとも更心もてげとらん

我心匪石不可茹亦有兄弟不可

以據薄言性慙逢彼之怒

徳あり我の鑒よけり人の心とくして知てこと
 うやうや又兄弟いふてさうなれどもかすの時ちよ
 りて我身の重ともなりがて頼るうざんせめて
 い夫婦のちるこけに往て心と憩かてんとすれ却

也我心席イハコ不ス威イ

て夫の怒ふ
逢ふとなくとも
○我心匪石不可轉也我心

儀棣棣儀選儀

匪席不可卷也威儀棣棣不可選也

憂心悄悄ウイシンシウシウ

石ころを転移して席に落ち、威儀を失ふ。床

羣小（子）閑と觀と既と

嫌われは選捨らる
 賢なりとさう
 ○
 憂心悄悄愠于羣小

多く悔と受し
不静言

觀閔既多受侮不少靜言思之寤辟

之を思おもて害がいを
辟ひらくくと標めるると

有標 夫よりすてらるれり人々をいかに関心する
とよりすてらるれり人々をいかに関心する

有あり 居ゐ 者もの 月つき 七しち

悔慢とうろろとよて心の憂うれ悄ひ々ひとこころの静しずか
ぢひてふれが寤ねあもたゞ辟はと撫なてこころを静しずか

送おく而を微こ心こころ之の

日居月諸胡迭而微心之憂矣如匪

如^じ静^{じやう} よ言^{こと}よ

澣衣靜言思之不能奮飛

綠衣四章

緣衣四章

篇の国の君莊公不徳なり。妻の
 色よくして夫人莊姜ハ賢徳に

聖なる捨られのふくら
 りの詩をうり

絲イロ兮衣ミ兮。絲衣黃裏心之憂ウレ夫葛維カキ其已ナク
絲紫ムラサキ色イロをミとス間色マダラとス不正マダラなミものハハ
青黃赤白黒アヲキナシロクロのミとス正マダラなミものハハ

ろの詩の心へ
 賢徳の夫に
 妻の心の憂
 とをう
 夫に捨てられて
 裏まがれむと
 する
 妻の心の憂
 とをう
 妻の心の憂

○縁兮

衣兮綠衣黃裳心之憂矣曷維其亡

緑の今衣今緑
 の衣黄なり裳
 心之憂矣
 曷ぞ維其亡ん
 緑の今緑今女
 の治る所今我
 古人と思て訖
 無ら俾矣

女所治兮我思古人俾無訖兮
糸今緑のの糸の

至しとかれんれり。治しも女の心よりかゝるや。誠よ
 すまひをしく頼がるる君なり。我を人の憂へい
 るうり。ぢやあうなる。古の人も。今も。人に遣へ
 のしと思ふ。てとの。我身の。託過の。かゝる。

ふりてし
 りりとて

○ 絺兮綌兮。凄其以風。我思

古人實獲我心
夏の衣服の秋の妻其

締ちぢたり今締ちぢたり今締ちぢたり今締ちぢたり今
 今今妻よめ其そとととと以もつ
 て風かぜよく我われ古いにしへ
 人ひとと思おもて實じつふ
 我心こころと獲とくたり

は逢てい人とするところを引て我身の衰へ
し時節よりいふたよりいふれども古の人にも

燕燕四章

燕燕于飛差池其羽之子于歸遠送于野瞻望弗及泣涕如雨

燕燕于飛頡之頡之之子于歸遠送于野瞻望弗及泣涕如雨

遠于飛之子于歸遠送于野瞻望弗及泣涕如雨
將瞻望及以弗
佇立以泣
燕燕于飛下上其音之子于歸遠送于南瞻望弗及實勞我心仲氏任之只其心塞淵終溫且惠淑慎思之勗勉

燕燕四章

似其身之上乃... 戴媽と妻ふむ... 世ふて桓公と申... 陳へ立歸ふる... 詩あり

燕燕于飛差池其羽之子于歸遠送于野瞻望弗及泣涕如雨

燕燕于飛頡之頡之之子于歸遠送于野瞻望弗及泣涕如雨

遠于飛之子于歸遠送于野瞻望弗及泣涕如雨
將之瞻望弗及佇立以泣
上其音之子于歸遠送于南瞻望弗及實勞我心
仲氏任只其心塞淵終溫且惠淑慎
其身先君之思以勗寡人

みぬさうふ先君の思食と述て我ふ女のふ海と最
しめりとと又先君と思ひむさふとも詠ふる寡
人といふ自躬とてけり詞く
徳も寡れらとのとるやう

日月四章

右鄭氏の莊公の誓に詩あり
我心と日月と告訴に詩あり

日居月諸照臨下土乃如之人兮逝

不古處胡能有定寧不我顧

是冒乃如之人兮逝

不古處胡能有定寧不我顧

是冒乃如之人兮逝

不古處胡能有定寧不我顧

是冒乃如之人兮逝

不古處胡能有定寧不我顧

是冒乃如之人兮逝

不古處胡能有定寧不我顧

是冒乃如之人兮逝

不古處胡能有定寧不我顧

是冒乃如之人兮逝

不古處胡能有定寧不我顧

是冒乃如之人兮逝

不古處胡能有定寧不我顧

是冒乃如之人兮逝

不古處胡能有定寧不我顧

日居月諸諸東方
出自父兮母兮
我畜卒不
胡能定有
不報述
良無胡能
有忘可
也

日居月諸諸下土
是冒乃如之人兮
不古處胡能有定
寧不我顧
是冒乃如之人兮
不古處胡能有定
寧不我顧

終風四章

此もあつて終風の終日々々吹

日居月諸諸東方出自父兮母兮我

不卒胡能有定報我不述

音無良胡能有定俾也可忘

養未卒て家ふわしる憂はるる義理
ふ述る

わすれに
けしき

日の詩のこころは暴風のたすけ
 日ゲのこころとてやむもの比ふ
 或いは我と終

終風且霾惠然肯

君の風のくさや
ふさふさ風のくさや

寤言不寐願言則嚏

す
多く
噓 噓
とて 其陰
とて 其雷

ちす寤て言ふ
寐られ不願て
言ふ則ち懷ふ

擊げき鼓こ五ご章しやう

鼓と撃と其鏜

たり踊躍して
 兵と用也國
 土曹ふ城
 我獨南行を

經曲餘而

衛の侯州乎との時公子孫子
仲の命として宗と東と祭と

擊鼓其鏜踊躍用兵至國城漕我獨

軍兵いづゞ踊躍て敵へ攻め入り

要害とすゆゑに之を以て軍役とせしむるべし
 我持の漕の城とすゆゑに之を以て軍役とせしむるべし

孫子仲平陳與宋不我以歸憂心

爰居爰處爰喪其馬于以求之林之下

死生契闊與子成說執子之手與子偕老

從孫子仲平陳與宋不我以歸憂心

有仲衛的大將孫子仲軍兵との先陳と宋との交情といふ平げて夫より敵へ

爰居爰處爰喪其馬于て仲々も

以求之林之下隊伍を軍法を以て爰に居又

死くこも處て馬と喪ちふも林の下と

生契闊與子成說執子之手與子偕

老妻ののこもと思つて兼て成て偕も

于嗟闊兮不我路へて遠て復る

活兮于嗟洵兮不我信兮誓約しとも信じて我と共に

凱風四章衛の風俗亂れ放蕩して七人の子と持し寡婦にけり

凱風自南吹彼棘心棘心夭夭母氏中とのべてるの身の孝の不足ゆへにけり

劬勞凱風を南に吹て万物とて中との

氏劬勞吹てをて七人の子にけり母氏を劬勞と

凱風南吹彼棘薪母氏聖善我無令

人無愛小寒泉有浚之下小在子七人有母氏勞苦

眠曉黃鳥載其音和好子七人有母の心と慰とる

雄雉四章雄雉于飛泄泄其羽我之懷矣自詒伊阻

雄雉于飛下上其音展矣君子實勞我心と勞と

彼日月と瞻て悠悠我思道之云ふ遠く曷と云ふ能來

凱風南吹彼棘薪母氏聖善我無令

人。上の心とて我々子の人として七人の中ふたれ

浚之下有子七人母氏勞苦

眠曉黃鳥載其音和好子七人有母の心と慰とる

雄雉四章雄雉于飛泄泄其羽我之懷矣自詒伊阻

雄雉于飛下上其音展矣君子實勞我心と勞と

彼日月と瞻て悠悠我思道之云ふ遠く曷と云ふ能來

能來

瞻彼日月悠悠我思道之云ふ遠く曷と云ふ能來

能來

百爾の君子徳
行と知不忒
不不求
何と用て臧
らん

匏有苦葉四章

匏有苦葉
濟有深
有深
則厲
則揭

能、ふ、臨、未、
百爾君子。不知德行不

岐不求何用不臧
凡てその地ふける君子の心

人再づるも道の徳と知るものなる心求ふて
何事減ぶるといふ心元よりその身

も無事つてからくもて歸るよりと心よ

祝詞より

匏有苦葉四章

衛の國風
正風
野人
婦人
婚姻

匏有苦葉
濟有深
深則厲
淺則揭

匏有苦葉
濟有深
深則厲
淺則揭

匏有苦葉
濟有深
深則厲
淺則揭

淵有濟
有鳴
有鳴
有鳴

淵有濟
有鳴
有鳴
有鳴

淵有濟
有鳴
有鳴
有鳴

淵有濟
有鳴
有鳴
有鳴

淵有濟
有鳴
有鳴
有鳴

淵有濟
有鳴
有鳴
有鳴

淵有濟
有鳴
有鳴
有鳴

淵有濟
有鳴
有鳴
有鳴

淵有濟
有鳴
有鳴
有鳴

有
○有

有
○有

有
○有

有
○有

有
○有

有
○有

有
○有

有
○有

有
○有

谷風六章

習しやく習しやく谷こく風ふう
以て陰いん以て

雨と雷勉心と
同ぶる一貫
く怒る有る
不苛と米非と
米下體と以て
違ふ莫は爾と
死と同ふせん

行道遲遲
中心違
不伊邇
薄
我
幾
送誰
茶
苦
謂其甘
齋
爾
の
新
昏
と
宴

詩經卷之二

事等早朝とりらぬ例あり依て旦の始り也日の出時より凡と士の妻と歸くるハ入事なり手前取り取らるる人昏姻仲春の事なり一兩月も前氷の泮ふところより結ぐことぞ招招舟子人涉印否人涉印否印須我友とんとてんは他人はとん涉とも印へ否々

谷風六章

その詩へ夫婦の道とていふ
まゝと刺りしうり備

新風侶やく舊室ふるむろとすて
妻と愛を

習ナラ習ナラ谷風以陰テ以雨テ黽ム勉ム同心ニ不レ宜カ

有怒采葑采菲無以下體德音遠

及爾同死

夫婦の中の道は陰陽のひかり合して

万物雨露より生ずるは、夫夫婦の中もかく
 の如くばらばらは、睚眦（やみ）で心と同一なり。さういふべし。
 うりともよ怒り、ひくぐんぐん、（たがひ）
 食するよその下體のわきまを捨てる、（ちぎる）
 の根より手と以てその臭味討いで捨てる理あり。あつた
 まゝく徳の音づれよく莫違（なげかり）べし。の心も未
 らへして死して同所なり。○行道遲遅中心有
 違不遠伊邇薄送我畿誰謂余苦其
 甘如薺宴爾新昏如兄如弟
 と送ると遠くすとして薺門幾たびか遅々として我

の如く衆
涇渭濁湜湜其
汙爾新昏
寡我以不
我梁父逝
我笱發
母我躬閑
我後恤
遑

○涇以渭濁湜湜其汙爾新昏
昏不我屑以母逝我梁父發我笱我
躬不閑遑恤我後
○就其深矣方之舟之就其淺矣
泳之游之何有亡龜勉求之凡民
有喪匍匐救之
○不我能備反以我為讎既阻
我德賈用不售昔育恐育鞠及爾顛
覆既生既育比予于毒

其深矣方之舟之就其淺矣
泳之游之何有亡龜勉求之凡民
有喪匍匐救之

我之能備反以我為讎既阻
我德賈用不售昔育恐育鞠及爾顛
覆既生既育比予于毒

我わがふ旨し蓄ちく有あり亦また
以もつて冬ふゆふ御み爾に
の新あらた昏くらと宴えん
み我われと以もつて窮きう
御み洗せんふること
有あり潰つぶふこと有あり
既すでふ我われ肆しと詔めい
を昔むかし者もの伊い余あ来きた
り堅けんと念ねん不ず

して我と饑うの如く遂へ我より一徳
 とも阻するよりするより我身のすより一徳
 二賈のく飢うの如く遂へ我より一徳
 一時のく苦うの如く遂へ我より一徳
 顛覆するより予と毒のどより一徳
 今既生るるより一徳
 我有上菑亦以御冬宴爾新昏以我
 御窮有洗有漬既諗我肄不念育者
 伊余来暨食物の旨味しものと蓄
 春夏に至る新菜の旨味しものと出付て
 何れも捨らるる雨の今新ふ旨味しものと妻と
 愛してこれに困窮よりこれより一徳
 我の辨勞のものと詔とのものと一徳
 初て入来るる
 忘れありるる

式微二章

て衛^{ゑい}とたのゝ居^ゐめふまゐるに
黎^{らい}の国^{こく}の君^{きみ}北狄^{きたてき}の軍^{いくさ}兵^{へい}を逐^お

式微
久式微

詩

式微式微胡不歸微君之故胡為乎

中露路

胡こどど歸かへるる運うん氣きの衰し微ゐふふ身みと寄よる

式微しきけい式微しきけい
胡こと歸かへり不君ふきん之の

○式微式微

胡不歸微君之躬胡爲乎泥中

身みのの馬うま

人

よとの心なり泥ハ草
ふきどろの中なり

施丘二章

施丘四章

式微しきひと同どう例れいなりこの時とき黎國れいこく
の君臣きんしんの衛ゑいの西せいより寓居うきよに

施丘之葛兮何誕之節兮叔兮伯兮何多日也

何其處也必有與也何其處也必有與也何其處也必有與也

狐裘蒙戎匪車不東叔兮伯兮靡所與同

瑣兮尾兮流離之子叔兮伯兮褻如

簡兮四章

簡兮簡兮方將萬舞日之方中在前

施丘之葛兮何誕之節兮叔兮伯兮何多日也

何其處也必有與也何其處也必有與也何其處也必有與也

狐裘蒙戎匪車不東叔兮伯兮靡所與同

瑣兮尾兮流離之子叔兮伯兮褻如

簡兮四章

簡兮簡兮方將萬舞日之方中在前

碩人侯侯公庭萬舞有力如虎執轡如組

左手執籥右手秉翟赫如渥赭公言錫爵

山有榛隰有苓有云誰之思西方美人

人彼美人兮西方之人兮

泉水四章

泉水四章 亦其流于淇有懷于衛靡日不思變彼諸姬聊與之謀

碩人侯侯公庭萬舞有力如虎執轡如組

左手執籥右手秉翟赫如渥赭公言錫爵

山有榛隰有苓有云誰之思西方美人彼美人兮

西方之人兮

泉水四章

亦其流于淇有懷于衛靡日不思變彼諸姬聊與之謀

泉水四章

亦其流于淇有懷于衛靡日不思變彼諸姬聊與之謀

泉水四章

亦其流于淇有懷于衛靡日不思變彼諸姬聊與之謀

泉水四章

亦其流于淇有懷于衛靡日不思變彼諸姬聊與之謀

泉水四章

亦其流于淇有懷于衛靡日不思變彼諸姬聊與之謀

泉水四章

亦其流于淇有懷于衛靡日不思變彼諸姬聊與之謀

出でて **手** て 干かん かん 宿しゆく
 と **手** て 言い い い 飲いん 餞せん
 と 載さ さ さ 脂し 載さ さ
 牽けん 車くるま と 還かへ かへ
 て 言い い い 邁まい 端たん たん たん たん
手 て 衛ゑ ゑ ゑ 臻しん しん しん しん
 瑕か か か と 害がい がい がい 有あ あ あ 不ふ ふ ふ ら
 人

女子有行遠父母兄弟問我諸姑遂
及伯姊この詩の初嫁する時
國と出るに遠くへ所を一夜

規き 禪ぜん 土ど 地ち 餞せん 別べつ の 酒しゅ 宴えん と 道どう 中ちゆう
 の 守まも 神かみ と 祭まつり と 誠まこと ふ 女め 身み は 足たり 非ひ 行ゆく

姑^{ハハ}も^モび^ビの^ノ姉^{イモ}の人々^{タチ}と問謀^{トモス}し^シて父母^{フボウ}の歸^キ
寧^{ネイ}の^ノと^トを^ヲと^ト○出宿^{シュツシュク}于^ニ飲餞^{インゼン}于^ニ言載^{ゴンサイ}

脂載牽還車三邁迺臻于衛不取有

害 右と同意にて国と出
て訟とす所とも餓別
時予とつ上所ニ宿
せしむるをいふなりと

[illegible]

車くるまとし出でる軸こしの脂あぶらとなり轉くわやはるうへいろく
○我思肥泉茲之水歎思須臾漕そう

我心悠悠駕言出遊以寫我憂

りし時ハ須漕スウをもつる衛ヱの領地リョウヂと經スて肥泉ヒズンと
とより川とよりあしより今ふ永ナガく思おもひでな

つゝいふ歎とるる車駕に乗てとめあり遊あそぶ
とも出て遊あそぶ我とるの憂と寫うつるる一ひとつゝも

北門三章

折ふ城の北門と出入
て比い（さなり）

出自北門。憂心殷殷。終喪盡。貧莫知。

我艱已爲哉天實爲之謂之何

北門自出憂心
殷殷終小
窶且貧我艱
と知と莫己焉

經典餘師

特經卷之二

王事我上適也
政事一我上
埤益我外自
入我室人交徧
我我上適也
馬哉天實之
謂人哉

坪遺と我外自
 入の室人交徧
 移く我と摧已
 焉哉天實之
 と爲之と何と
 謂ん哉

北風三章
北風其涼
雨雪其勞
惠而後
好也手
携之
て同行
其虛其邪
既ふ
亟やふやん
只且

北風其喈々
經典餘師

王事適我。政事一埤益我。我

人よ埤益ヒキてとの苦ク勞ロウたぐひし終ハレ日ニチ々々々々勒ハカ
 ありて外トより歸カヘ宅タクするがゝるや室ムロの人々又家イヘ
 の雜シラ事コトとたぐひまゝりて變カ偏ヘンく我ガと議ギとをり
 ともやあるまゝりて已マデ爲ナ哉カ何ナニなる人々とむ
 り恨ウラミうこつとり
 その他いふ説セツち

○王事敦我政事一埤ニ

遣我ス我人ヲ自外室人交徧ハル摧我ハル已焉ヲ

哉天實為之謂之何哉

我よりゆりしをせまきよりなり遺といふなり
より坪より推といふ公用より又私用といふにて手戻
すりと推といふなりとの
他い上よりなり如し

北風三章

北風其涼雨雪其零惠而好我攜手サハリ。ニハル。ル。タリ。コ。ウ。ツ。シ。ヒ。メ。ニ。カ。ルト。テ。タ。
 同行其虚其邪既亟只且ク。サ。ラ。ニ。ユ。ル。ク。ニ。ク。セ。シ。ヤ。ニ。マ。カ。セ。ン。
此の詩ハ國家の
 乱ニテハ人々

て北風の涼しく雨雪の入り
なり世の中へかくと思ふ間
我と恵我と

[illegible]

衛の国は道と乱滑て
夫人も徳とういふ

靜女其姝。俟我於城隅。愛而不見。搔首踟躕。

静女其變貽我彤管彤管有煒說懌
 女美
 のとよて 古者天子諸侯の家と女の史

官ある一くりて礼法善悪行状等と記す
 その筆の管と形わけて用ゝなり詩の心へ形
 管の煒と説懌のそとす女の志節の美善とあ
 くゆうく覚るる女の法ととらふとといひあり

牧自美と歸洵
美ふく且異
女之美為小匪
ど美人之貽も
のり

新臺三章

新臺此と有
河水彌彌
燕婉之求め
蘧蔭鮮と不

變も必好
○自牧歸美洵美且異匪女

之為美美人之貽
の詩に敬とて
静女美と歸來り美

供品ゆ心の汚るを敬畏むふたうするより
心でも品物も洵に美麗く異なりたりとて
の美るものるに貽るものも美なりと依て礼と
ふて身とて
ふり比と

新臺三章

詩の宣公の夫人宣姜と齊
似ふる子細い元來衛の公子

新臺有泚河水彌彌燕婉之求蘧蔭

不鮮
てその泚を宣姜といふて新臺とて
殊り

新臺酒と
有河水流流
燕婉之求め
蘧蔭鮮と不

魚網之設け
則之小離
燕婉之求め
戚施と得

とめづるの河水
子細い水に汚れとて
舞い人どや
似合ふと夫と求め配
却て汚穢不鮮ものと取得
病に俯目とて
形に比して病の
○新臺有酒河水流

流燕婉之求蘧蔭不殄
高き水

魚網之設
病の瘡とて

鴻則離之燕婉之求得此戚施
取ん

とて設け網
の心る戚施に仰奉るの外は鴻鳥の離る
夫婦とて比ふ人
ちがひは比ふ人

二子二章

二子二章

宣姜の腹ふ壽といひ

宣公のたゆまりを先腹の至

公のたゆまりを先腹の至

公のたゆまりを先腹の至

二子乗舟汎汎其景願言思子中心

養養 二子舟のりて行

二子舟のりて行

二子乗舟汎汎其逝願言思子不瑕

有害 二子舟のりて行

